



学校だより

平成29年11月30日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.476

胸をはれる自分になりましょう

校長 谷田 弘子

先週、二年に一度の学芸会が終わりました。どの学年も熱の入った演技が続き、児童は全力を尽くしました。多くの保護者の方々、地域の方々に応援していただき、児童の演技が一層盛り上がりました。毎日の体調管理、小道具や衣装の準備等で、大変お世話になり、ありがとうございました。

さて、大人も子供も毎日の生活の中で、大切にしていることがたくさんあると思います。どんなことを大切にしているのでしょうか。大切にしていることは、人さまざまでいろいろなことがあります。

アメリカのドロシー・ロー・ノルト（※）さんは、「いちばん大切なこと」という詩の中で、ドロシーさんが考える「大切なこと」を16挙げています。ドロシーさんが、大切にしていることは、「順番を守ること」「自分の役割を果たすこと」「人の役に立つこと」「やると言ったことはやること」「人と一緒にいる時間を大切にすること」「ルールを守ること」「自分にできることだけを約束すること」「本当のことを話すこと」「家族を思う気持ちを伝えること」「間違いや失敗から学ぶこと」「人の過ちを許してあげること」「正しいことをやること」「自分の体を大切に体にして体に良いことを実行すること」「最高の自分になるためのことを惜しまずやること」「自然の美しい世界をしっかりと見つめること」の16のことです。そして、16の「大切なこと」の後に、必ず「そして胸をはれる自分になりましょう」という言葉を付け加えています。

最高の自分になるためにどんなことがよいのか、これには正解はないと思います。けれども、最高の自分になるためには、まず、自分

がどんな人間なのかを考えてみる必要があります。考える時には、ドロシーさんの16の言葉をヒントにして考えるとよいと思います。例えば、ルールを守っているか。人の過ちは許しているか。間違いや失敗から学んでいるか等です。そして、少しでも今の自分がどんな自分か分かったら、今度は、最高の自分とはどんな自分なのかを考えたいと思います。最高の自分になるためには、どんなことをどれだけしたらよいのか、それは自分自身で決めていくことです。親からこのようにやりなさいとか指示をされてすることではありません。598人（田二小の児童数）には、598通りの歩み方があります。けれども、それぞれの歩み方は違っても「最高の自分になるために努力を惜しまずにやる」ということは、人としての共通の目的です。目的に向かって、いつも最善を尽くし、よりよい自分を作り上げるために、保護者や周りの大人が支援をしてあげることが大切だと思います。

冬休みに、親子で一緒に楽しむ時間も良いと思いますが、親子でゆっくりと話をする時間を取り、子供の気持ち、親の気持ちを伝え合い、良く分かり合って、気持ちを新たに、新年を迎えることができるとよいと思います。

※ドロシー・ロー・ノルトについて

長年、家族のことについて研究に取り組み、その経験に基づいて親子の問題、子育てに関わるヒント、家族教育について書いた多くの著書があります。

日本では、「子供が育つ魔法の言葉」が有名です。